

2015年4月、誕生!!

現代社会に求められる 学生リーダーを養成。

OLS

Otemon Gakuin University
Leaders School

追手門学院大学 リーダーズ・スクール

[interview : 松岡 駿弥 / 八木 真奈美 / 橋 慶和]

学内ダブルスクールで リーダーシップを養う

この春、『追手門学院大学リーダーズ・スクール(OLS)』という名の複合型教育プログラムが誕生した。そして、その核となる「追手門学院大学リーダーズ・スクールゼミナール」が、春学期の履修科目として開講される。

「他の正課授業とは少し異なり、食堂棟の3階に常設された特設の教室で、水曜の2限目から昼休みまでを授業時間とし、昼食も一緒に摂りながら相互交流切磋琢磨していきます」。

ここで行われるリーダー養成の根底には、学生一人ひとりの特長を活かすことにある。

「限られた者をエリート教育することが目的ではありません。知識・技能・態度を身につければ、誰

もがその人なりのリーダーシップを発揮することができる、というのがOLSの趣旨。だから指導方法も、特定の誰かによる典型的なものではなく、チームによる

Tolive(徒弟制)で行います。講義形式の授業では、私やスタッフとなる教職員、ゲスト講師が担当しますし、ワークショップ形式

の授業では、学生自身が相互批評を通じて、学ぶ側と教える側の両方の役割を担っていきます」。

ゼミナール修了後には、養成コースの実践段階として、複数の海外プログラムに参加・履修することもできる。

「学んだ成果を試す、絶好の場です。言語や文化、価値観の異なる他国の学生と交流しながら協働することは、より深いリーダーシップの理解・修得につながると思います」。

追手門学院大学リーダーズ・スクールの概要

対象者

学部・学年は問いませんが、2~3年生が主な対象となります。また、事前に「リーダーシップ」「ファシリテーション」など、「表現コミュニケーション」の受講を推奨します。

OLS ゼミナール

- 開講日 = 毎週水曜日、2限~昼休みの130分(11:10~13:20) ※春学期
- 単 位 = 2単位(正課プログラム) ●定 員 = 原則40人
- 開催場所 = 食堂棟3Fの特設教室
- 内 容 = “体系的に学ぶ”ための講義と“実践的に理解する”ためのワークショップやスキルアップセミナー等を交互に行うことによる相乗効果で、リーダーに必要な知識・技能・態度を身につけていく。

OLS合宿研修

期間中にスタッフと共に1泊2日で行う。それまでに身につけたことをワークショップ・プレゼンテーション形式で発表することにより、成長や課題、反省点を確認し、その後の学修に活かすことを目的とする。

I N T E R V I E W



副学長(学生領域担当・教務領域担当)
基盤教育機構
Keiji Hata
秦 敬治教授

1986年、西南学院大学商学部経営学科卒業後、同大学職員に。2006年4月より愛媛大学へ教員として赴任し、07年に愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)を創設。14年9月より追手門学院大学へ。教育開発センター長やサッカー部総監督も務める。2014年、アジア太平洋学生支援協会(APSSA)のプレジデントに就任。



追手門学院大学 リーダー養成の 3つのステップ

1st STEP OLS

追手門学院大学
リーダーズ・スクール

2nd STEP UNGL

西日本学生
リーダーズ・スクール

3rd STEP APSSA

アジア太平洋
学生支援協会

学生の活動と 身につける力

体系的に学び スキルを身につける

- 多種多様なリーダーシップ論や実践例を学び、体系的に論述できるようにする。
- 他者に考えを伝える際に求められるプレゼンテーション能力や、そのために必要な情報収集や状況分析、資料作成の方法を身につける。
- 自己分析と他者理解を習慣づける。

他大学の学生と海外などで 学修成果を発揮する

- 研修先(韓国・サイパン)で、現地学生への講義や現地小学生への教育実習をグループワークとして行い、コミュニケーションスキルや、状況・役割に応じてリーダーシップを発揮する力を増す。
- 他大学の学生と交流し、同じプログラムに取り組む、切磋琢磨する。

多国籍のメンバーとの 共同プログラムに参加

- 文化や価値観の異なるアジア太平洋地域の国々の学生と、多国間交流を図る。
- ディスカッションや、共同で行うワークショップに参加することで、グローバルな場で求められるコミュニケーションスキルやリーダーシップを模索しながら養っていく。